

個人投資家説明会

Fly to the next stage!

説明資料

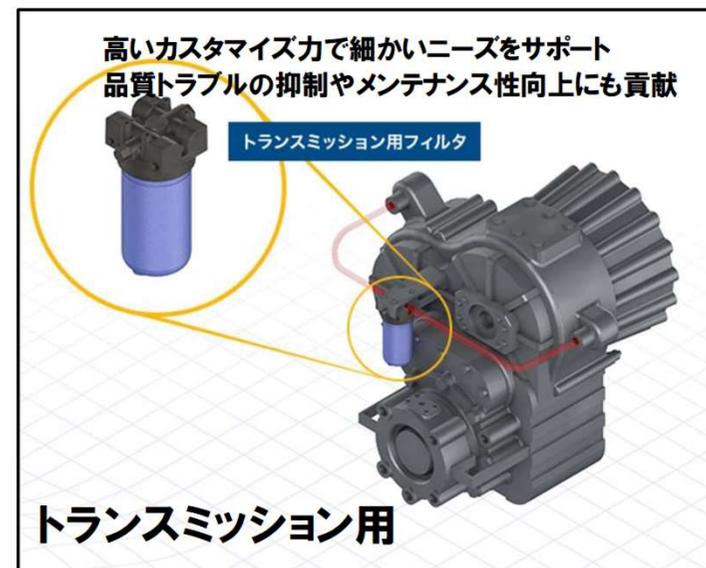
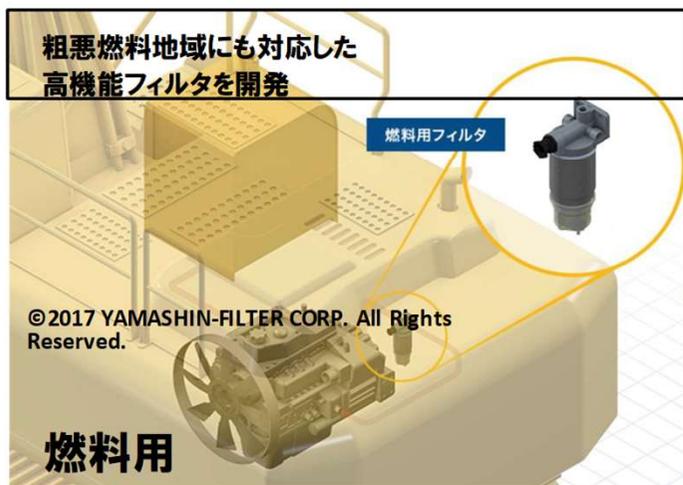
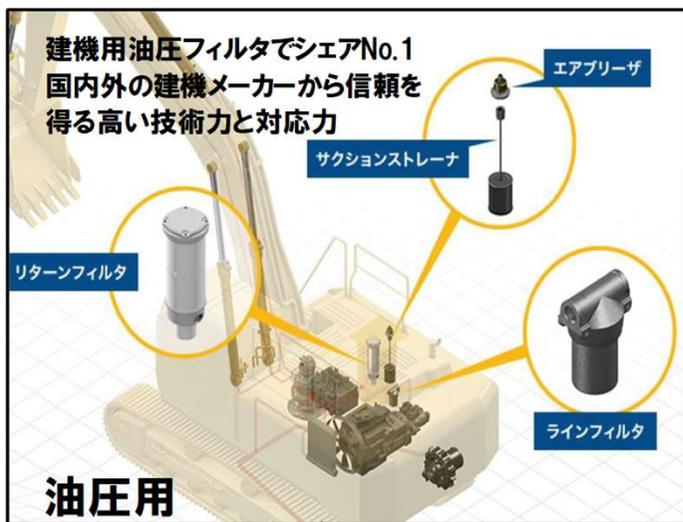
ヤマシンフィルタ株式会社
2024年12月20日



1. 社是：仕濾過事（ろかじにつかふる）
2. 銘柄：ハイブリッド銘柄
3. 株主還元：高配当銘柄

| ヤマシンフィルタの強み

建設機械の稼働に不可欠なフィルタ、多様なラインナップを建機メーカーに提供



Tier1メーカーとして、建機業界や顧客ビジネスに対するナレッジ・1次情報を豊富に保有、それらをもとに製品開発・最適供給することで顧客価値を最大化、トップシェアを誇る

POINT.1

建設機械分野でフィルタ製品を供給する

Tier1メーカー

POINT.2

建設機械用油圧フィルタ

世界シェアNo.1



国内における主要建機向け油圧フィルタ売上シェア (2012年度) 出典：矢野経済研究所



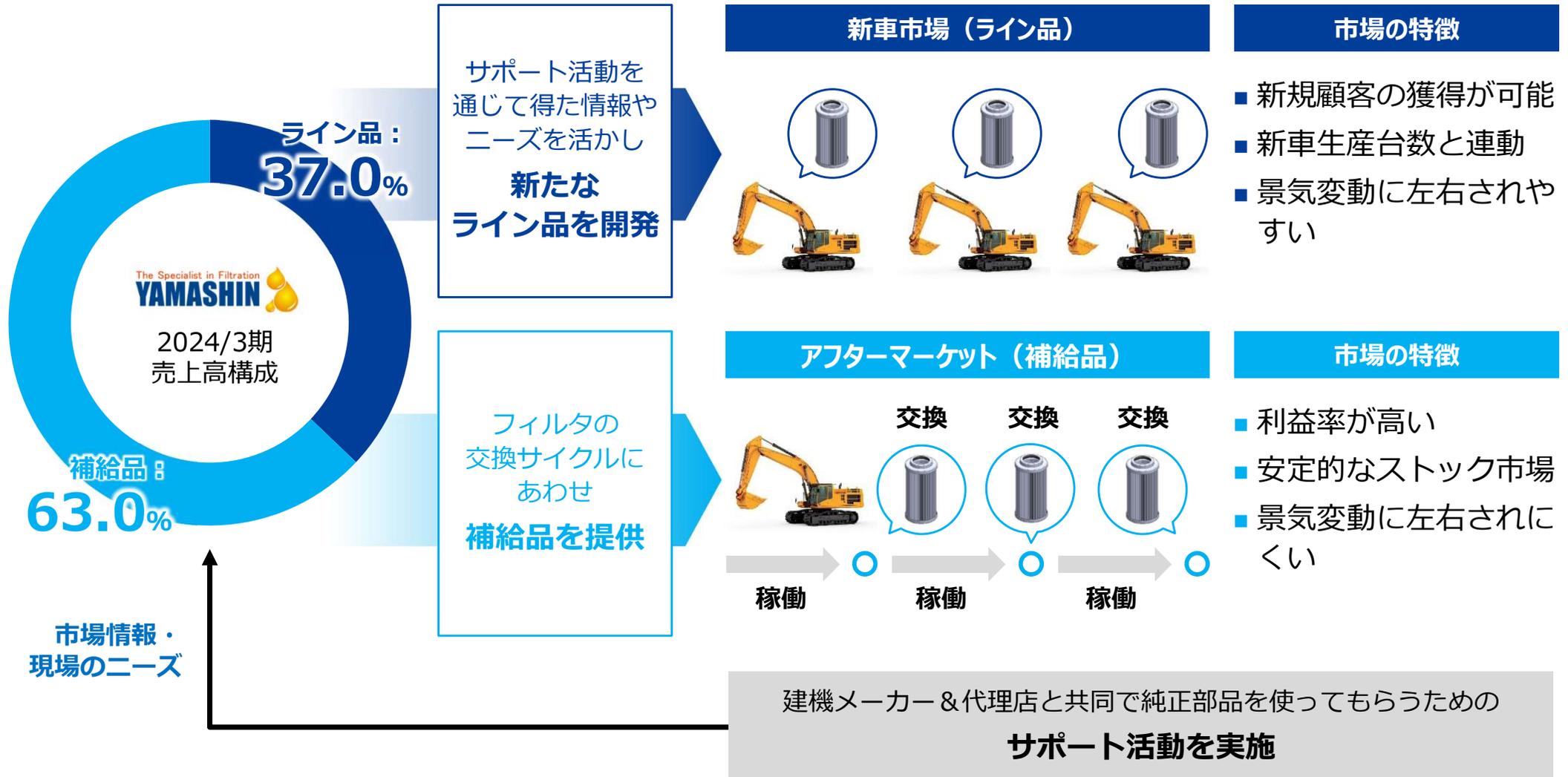
全部門で業界・顧客の課題やニーズを把握することで、新たな顧客価値を最大化



顧客ニーズを満たす
3つの強み



新車ライン品と交換用のアフターマーケット品を組み合わせることで、安定した収益構造を実現
加えて市場の情報やニーズを把握し、新たな開発につなげるサイクルを確立



これまでも当社は先んじて建機業界のデファクトを牽引してきた実績がある
ガラス繊維に置き換わる次世代のろ材として、ナノファイバーを競合他社に先んじて導入を進める

これまで

社会の要請に合わせてフィルタのろ材に
こだわり、自社で独自の素材を開発し業界を
リード

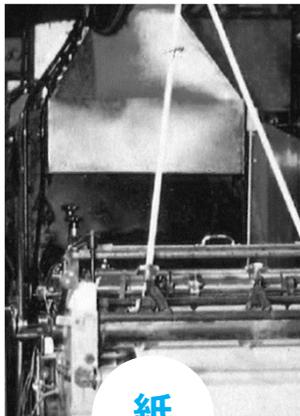
創業期



布

帆布製品の
縫製加工

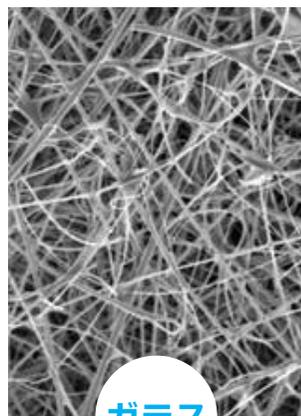
黎明期



紙

フィルタメーカー
として自社で
ろ紙を開発

発展期



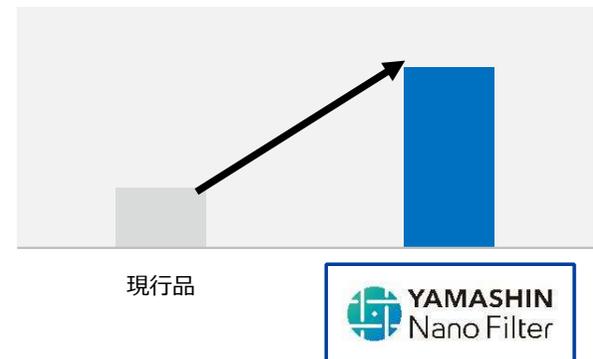
ガラス

ガラス繊維を用い
市場を席卷し
高いシェアを獲得

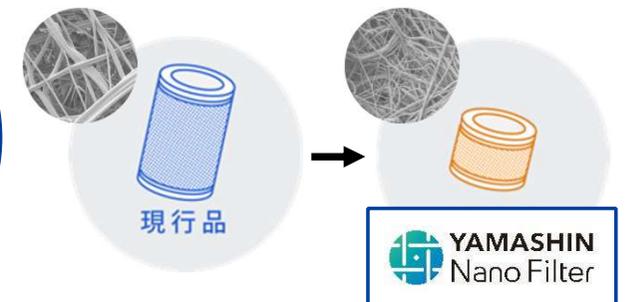
新製品

YAMASHIN Nano Filter™から生成される
ナノファイバ素材は、立体的な構造と加工の
自由度の高さが特徴

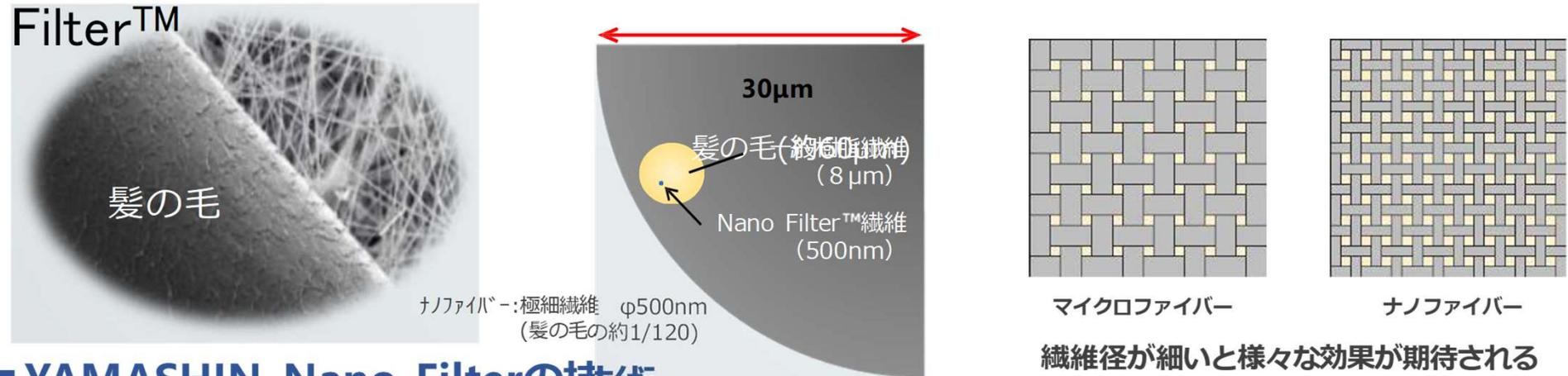
素材性能を活かし
現行品に比べ
**約3倍の
ダスト捕獲量**



従来のガラス繊維の
製品と比較して
**約2倍の精度を
実現**



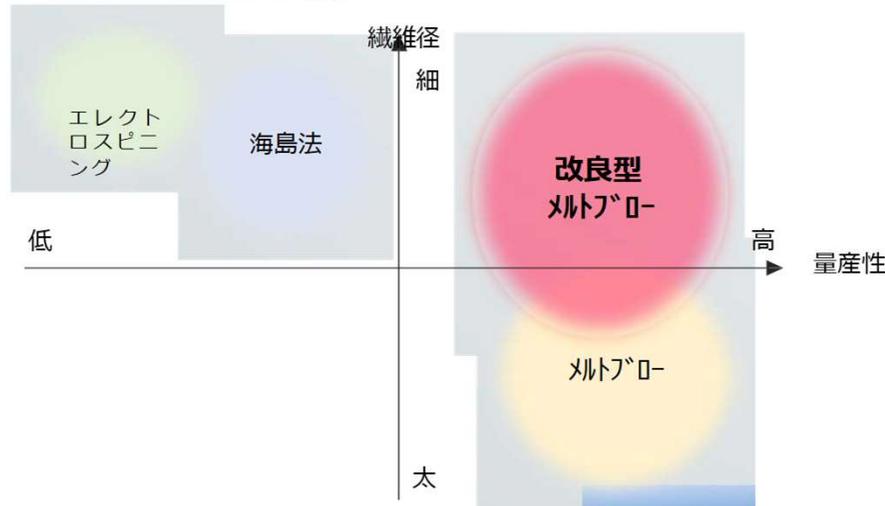
ナノファイバーとは？ - Yamashin Nano Filter™



■ YAMASHIN Nano Filterの技術

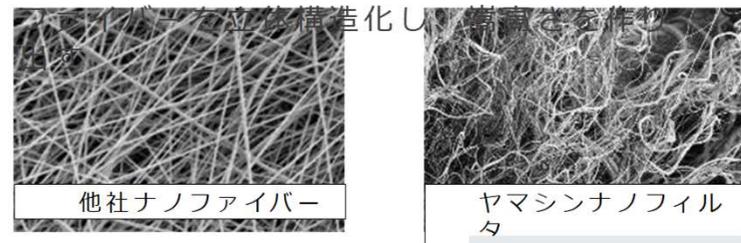
① 安価なナノファイバー

「改良型メルトブロー法」という独自の生産方法で
圧倒的な量産性を実現



② 厚みがあり、シート化可能

繊維径分布と特殊な形状の融合により



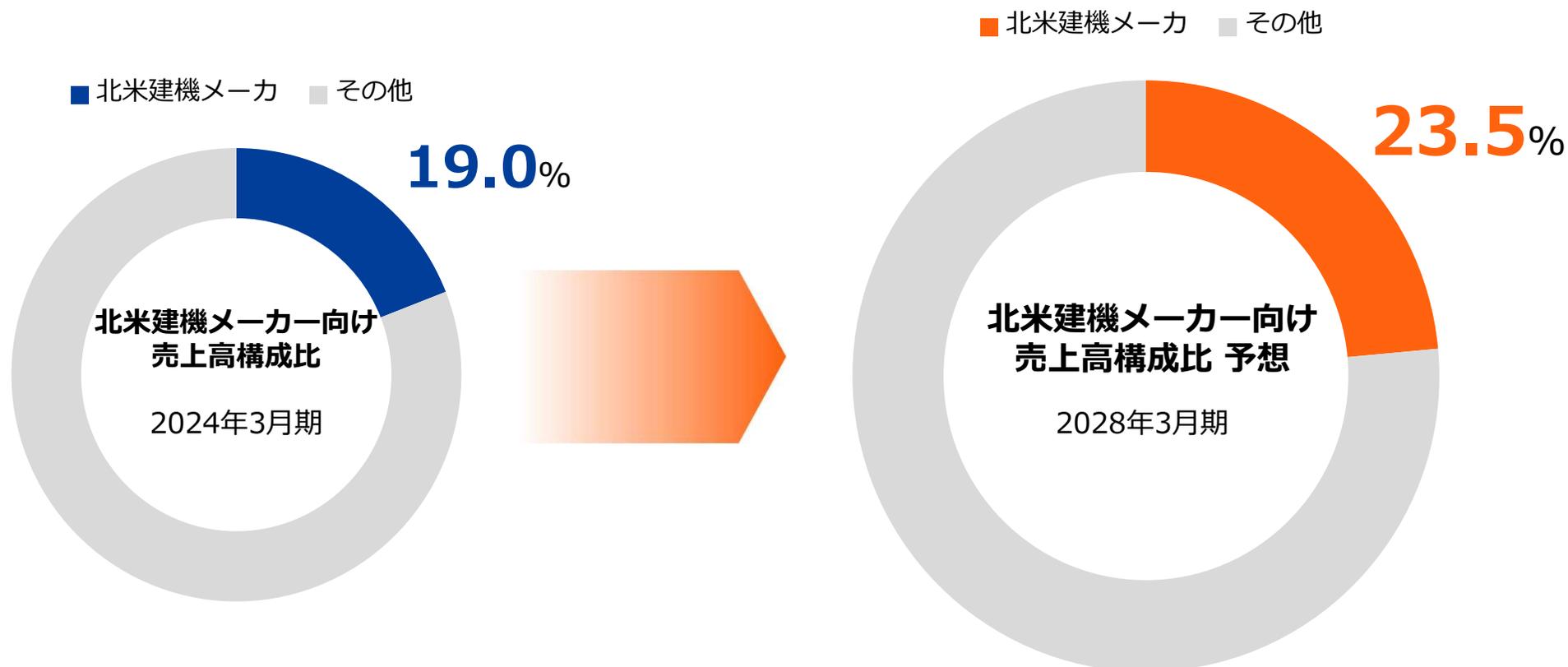
新たな価値創造の取り組み

北米建機メーカー向け売上高構成比は、大幅な拡大を見込む

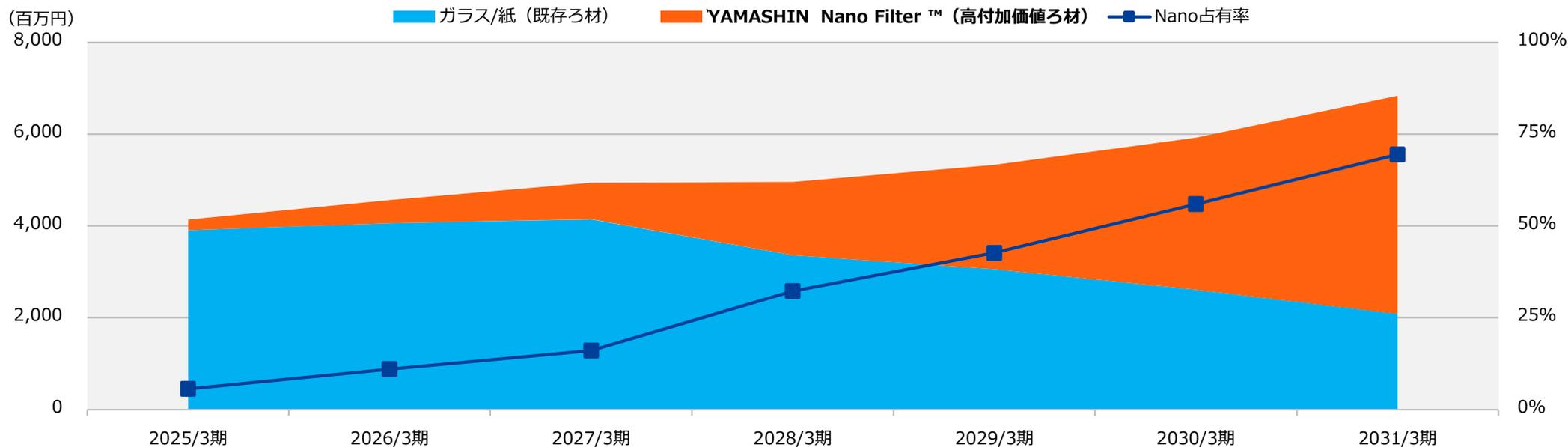
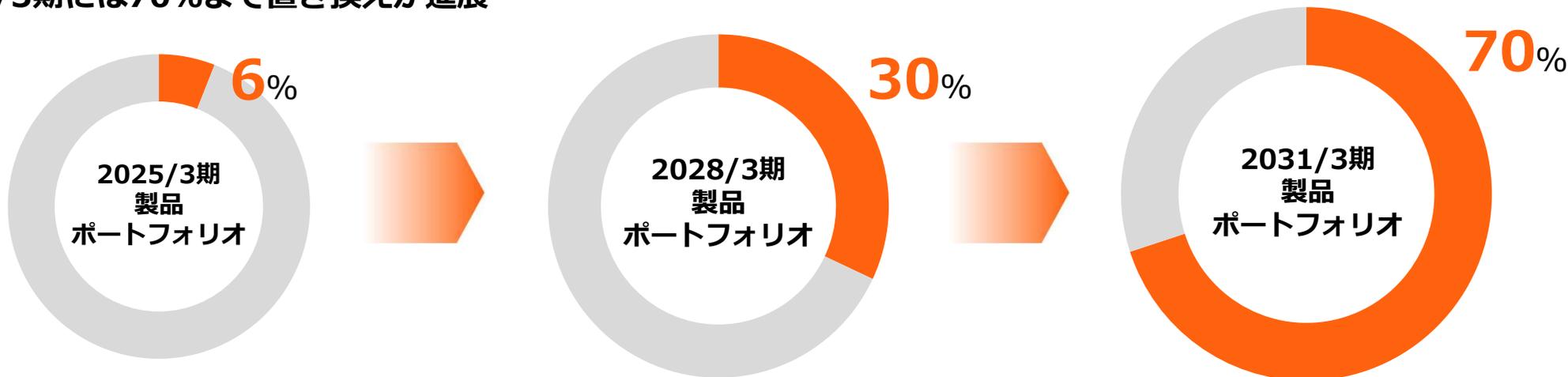
実施
施策

多様な顧客接点×技術シーズによる
高付加価値製品の提案

新規製品の採用獲得



高付加価値製品（YAMASHIN Nano Filter™）への置換えが進展、中計期間最終年度には約30%、2031/3期には70%まで置き換えが進展



当社はまだ一部分しかリーチ出来ていないが、アフターマーケット市場には大きな開拓余地があり

市場データ
単年度、5年間販売台数

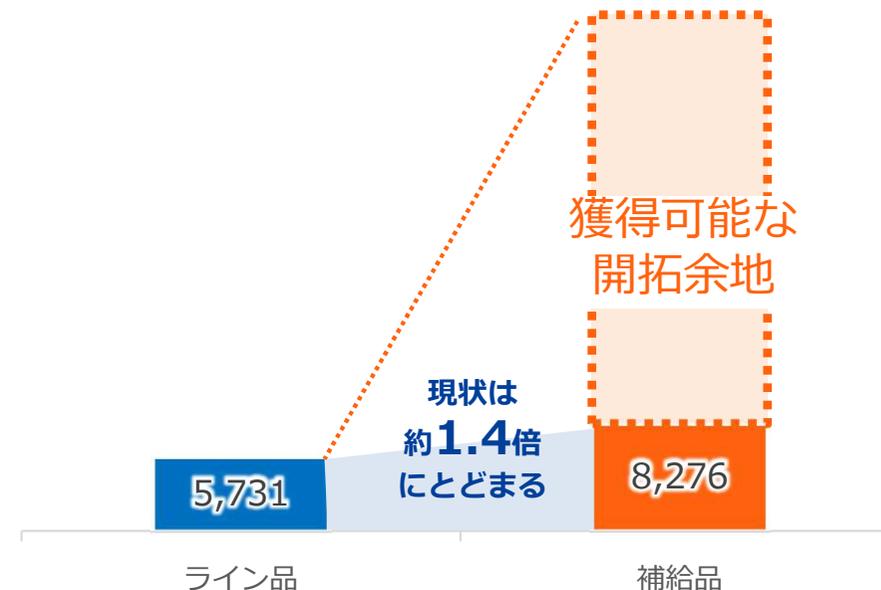
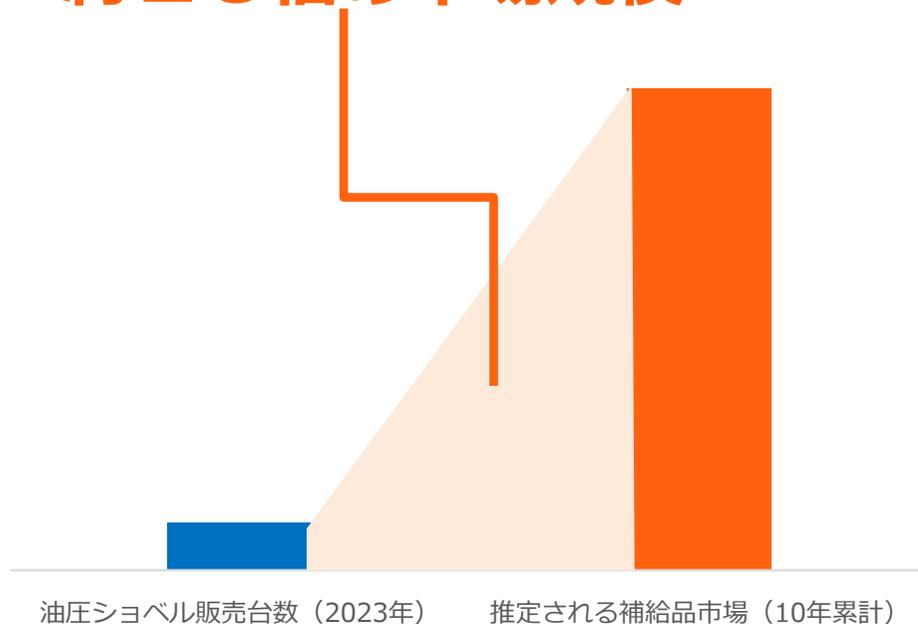
当社のライン品・補給品売上高
24/3期

補給品はライン品の
約**10倍**の市場規模

≠

The Specialist in Filtration
YAMASHIN

当社の補給売上はラインの
約**1.4倍**程度



規制動向や環境ニーズの高い欧州をはじめとする海外市場では、機能性ろ材の需要は強い
地産地消が基本となるエアフィルタにおいて、スピード対応するためろ材販売が最適と判断

フィルタ素材に求める機能性の高まり

環境規制のトレンド

- PFAS※1規制強化
- ZEB※2認証

半導体製造の技術トレンド

- ボロン※3汚染への対応



エアフィルタ市場

HVAC※4用フィルタ全世界
67.2億米ドル (2024年)
年平均成長率**6.9%** ※5

NanoWHELPシリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

製品用途	製品特徴
中高性能エアフィルタ用	省エネ性能 低CO2排出 PFAS・PFOSフリー※1

Nano Air (HEPA) シリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

製品用途	製品特徴
特に高い清浄度が求められる環境向け 製薬・半導体製造のクリーンルームなど	PFAS・PFOSフリー※1 ボロンフリー※3の不織布型

※1 有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、代表例として、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）がある。難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質がある

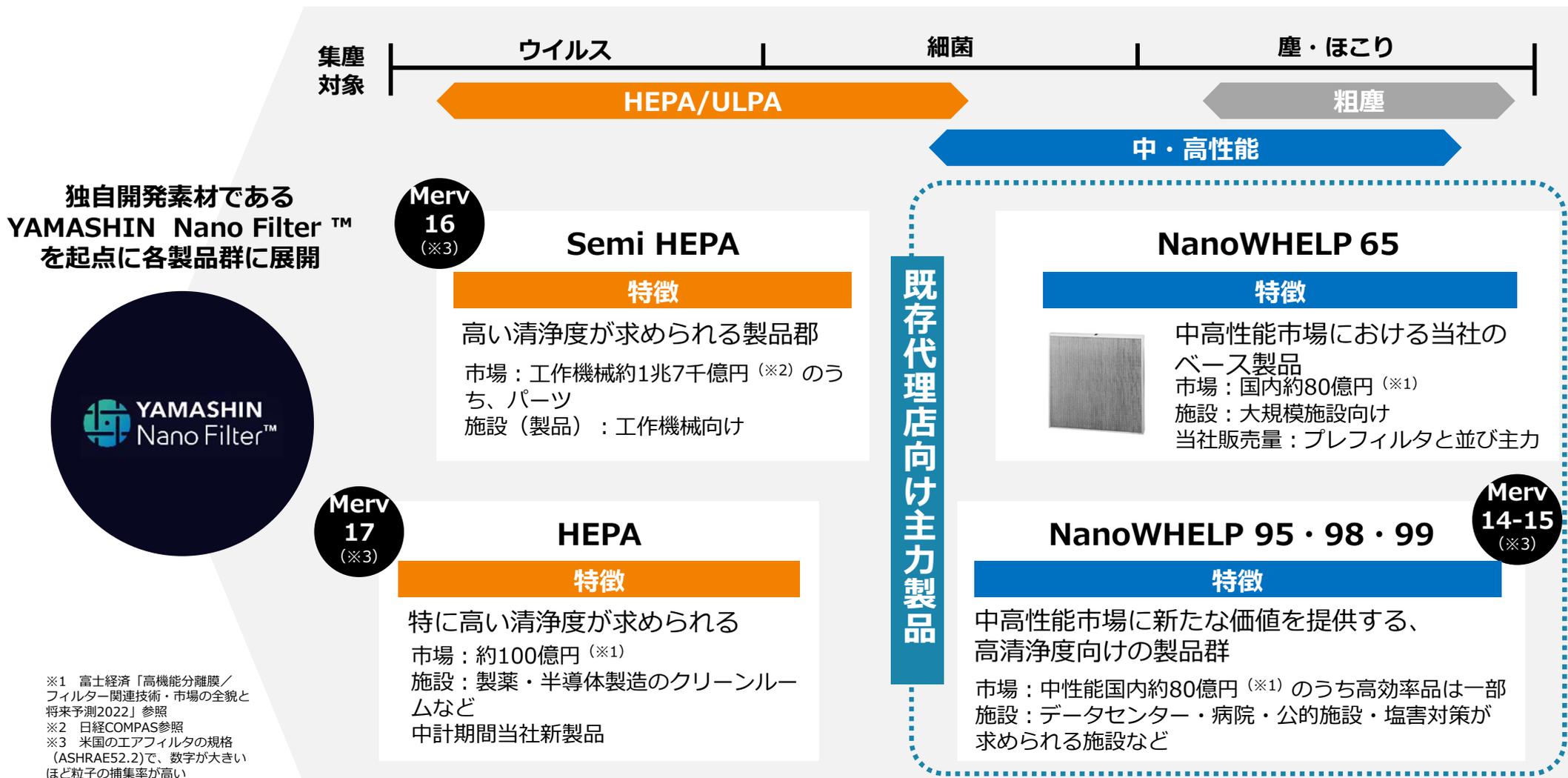
※2 Net Zero Energy Buildingの略称。建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロとすることを目指した建物

※3 ホウ素のこと。半導体特性に影響を与えてしまうため、半導体工場では避けられる。

※4 冷暖房等の空調システム。

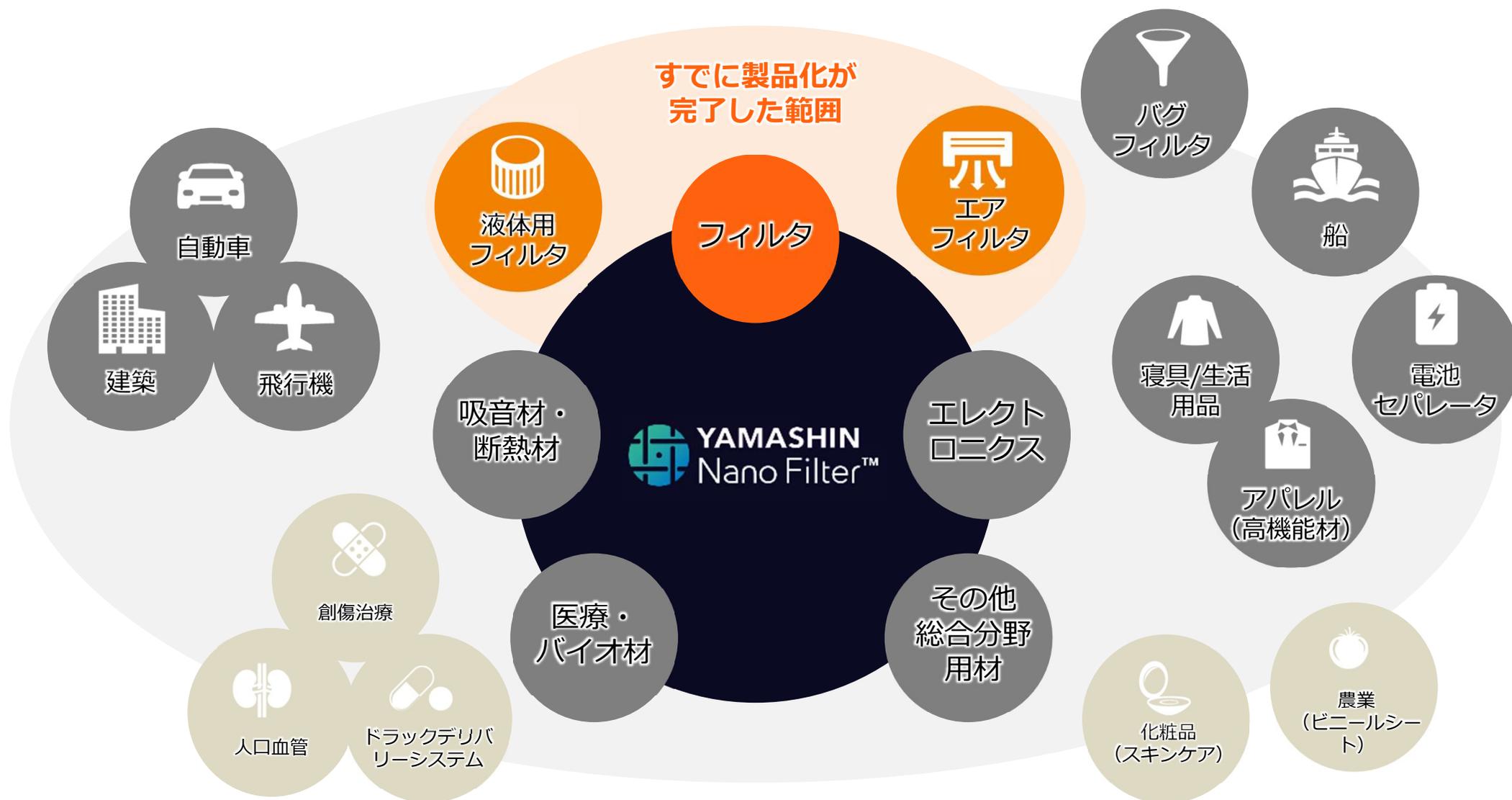
※5 出典：Research and Markets

独自開発のナノファイバーろ材を用いたNanoWHELPのラインナップが存在
特徴であるロングライフ化と低い空気抵抗による省エネ・CO2低排出を活かす

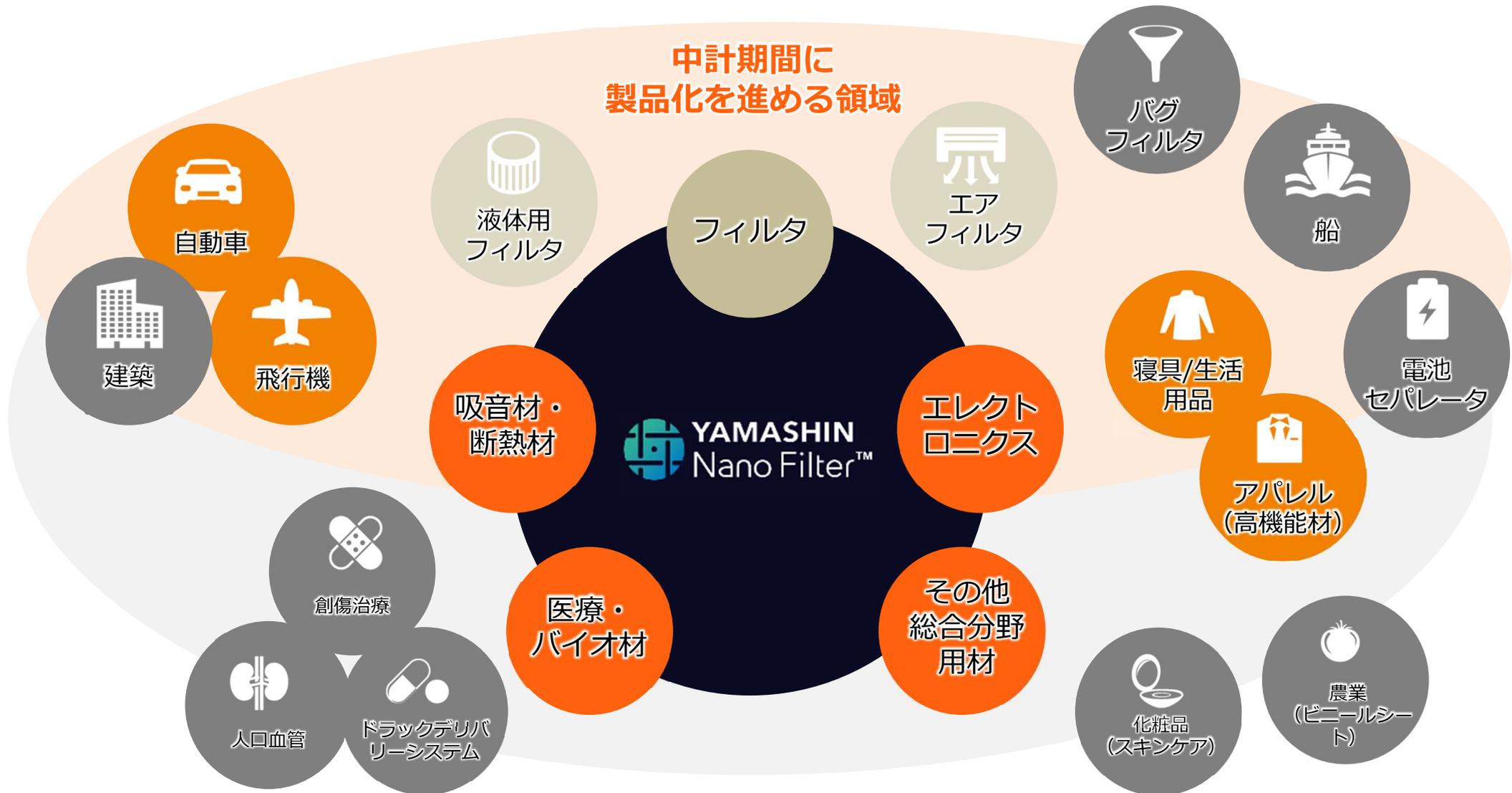


※1 富士経済「高機能分離膜／フィルタ関連技術・市場の全貌と将来予測2022」参照
※2 日経COMPAS参照
※3 米国のエアフィルタの規格 (ASHRAE52.2)で、数字が大きいほど粒子の捕集率が高い

YAMASHIN Nano Filter™は素材として様々な可能性をもっており、
開発以来フィルタ領域におけるろ材としてはすでに新製品開発に成功し実用化



すでに製品化しているフィルタ領域に加えて「断熱・吸音」「エレクトロニクス」分野を軸に自動車・飛行機、アパレル分野への進出を目指す研究開発を進める



YAMASHIN Nano Filter™の特性に加えて+アルファの機能を組み合わせた新素材を開発ターゲットとする

既存特性に付加する機能

既存特性



高空隙性
軽量性
透湿性



付加する価値

耐熱
吸湿発熱
超軽量

想定される市場規模※

全世界・断熱材市場

10兆円
2023年



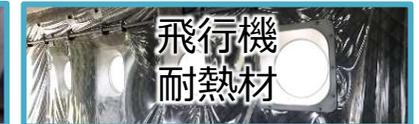
14.6兆円
2028年

※出典：Markets and Markets

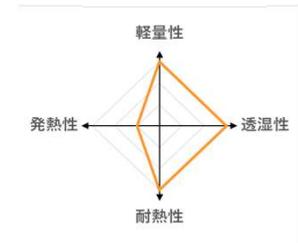
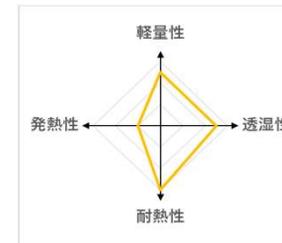
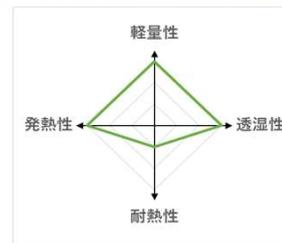
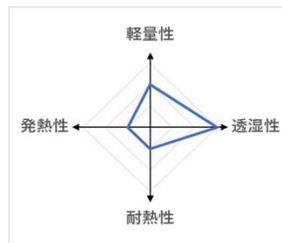
開発STEP1

開発STEP2

ターゲット
となる製品・市場



求められる
機能



カギとなる要素

コスト低減

吸湿発熱・超軽量

高耐熱性能

高耐熱性能

YAMASHIN Nano Filter™の特性に加えて+アルファの機能を組み合わせた新素材を開発ターゲットとする

既存特性に付加する機能

既存特性



高空隙特性
軽量性
透湿性（通気性）



付加する価値

導電性

想定される市場規模※

全世界・スマートテキスタイル

0.88兆円
2024年



2.4兆円
2028年

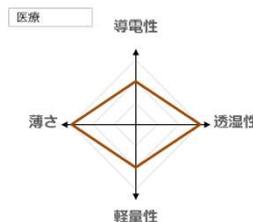
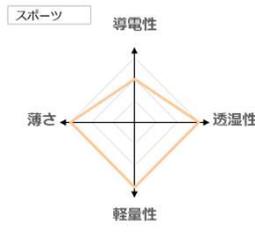
※出典：Markets and Markets

開発STEP1

ターゲット
となる製品・市場



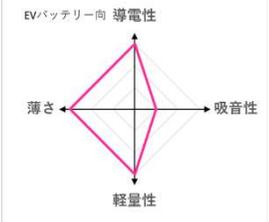
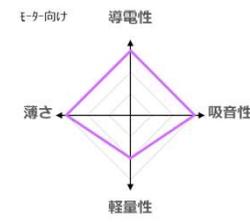
求められる
機能



センサー感度
(繊維の細さ)

センサー感度
(導電性・繊維の細さ)

開発STEP2



高い導電性と吸音性

高い導電性

カギとなる要素

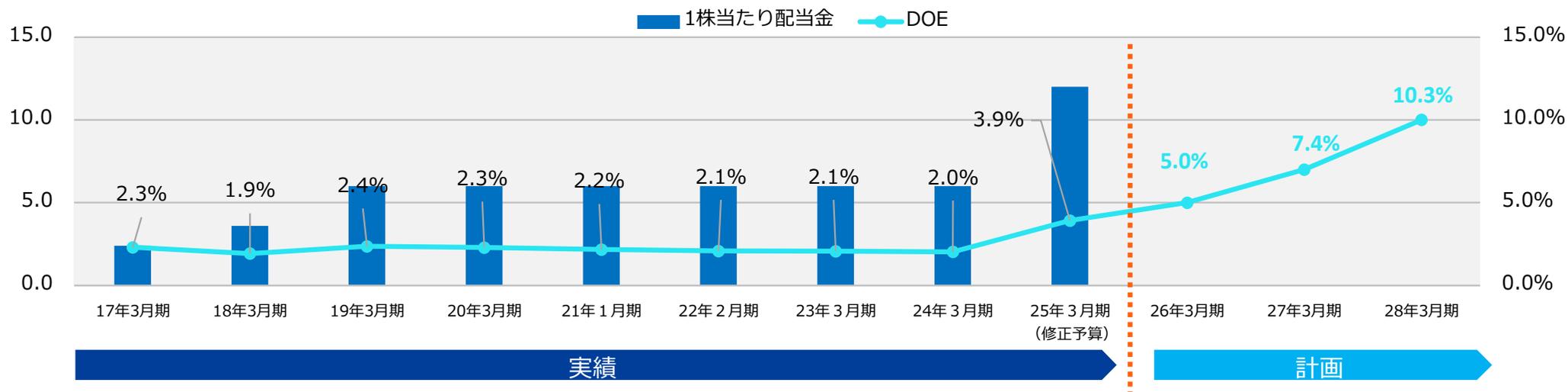
資本コストを意識した経営の強化

資本政策を抜本的に見直し高い株主還元を目指す 配当方針として2028年3月期DOE10%

※成長投資の必要性を踏まえ実施

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 修正予算	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
1株当たり配当金	6円	12円	—	—	—
DOE (%)	2.0	3.9	5.0	7.4	10.3
配当性向 (%)	54.5	57.2	58.1	72.2	82.9
総還元性向 (%)	121.0	61.2	113.5	119.3	122.0

1株当たり配当金推移



新中期経営計画の定量目標（連結）

2025年3月期までに収益改善、経営基盤の強化を完了、
2028年3月期にはMAVY's 2%以上、時価総額1千億円を目指す

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 修正予算	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	18,024	19,300	20,420	22,030	23,790
営業利益	1,411	2,220	2,720	3,220	3,875
営業利益率 (%)	7.8	11.5	13.3	14.6	16.3
MAVY's (%)	△2.6	△1.4	0.2	1.3	2.9
ROIC (%)	4.9	6.7	8.1	8.9	10.2
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3
EPS (円)	11	21.0	27.5	33.2	41.0

建機用フィルタビジネスの収益性は大幅に改善、エアフィルタ事業のROIC改善が取り組むべき課題

建機用フィルタ事業

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 修正予算	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	15,382	16,500	17,520	19,030	20,690
営業利益	1,320	2,100	2,600	3,070	3,710
営業利益率 (%)	8.6	12.7	14.8	16.1	17.9
ROE (%)	3.9	8.1	9.8	11.7	14.4
MAVY's (%)	△1.7	0.2	1.5	2.6	4.3
ROIC (%)	5.8	8.3	9.4	10.2	11.6
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3

エアフィルタ事業

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 修正予算	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	2,642	2,800	2,900	3,000	3,100
営業利益	91	120	120	150	165
営業利益率 (%)	3.5	4.3	4.1	5.0	5.3
ROE (%)	2.4	0.3	2.3	2.8	3.0
MAVY's (%)	△6.0	△7.8	△5.8	△5.1	△4.6
ROIC (%)	1.5	0.4	2.1	2.5	2.7
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3

既存事業で得たCFを成長投資・株主還元に向け、企業価値向上、持続的成長を図る



資本政策を抜本的に見直し資本収益性の改善を目指す
財務レバレッジ効果によりWACCを低減

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 修正予算	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
BS					
総資産	25,943	26,041	28,000	30,000	32,000
自己資本比率 (%)	82.1	85.1	79.2	73.2	67.7
財務レバレッジ (倍)	1.22	1.18	1.26	1.37	1.48
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3

非財務KPIを設定することで、サステナビリティの取り組みをさらに促進させ、開示文書やCDPを通じたサステナビリティ情報の透明性を向上

2024/3期 実績

ESG投資指数

- FTSEスコア**2.7**
FTSE Blossom Japan Sector
Relative Index初組み入れ
- CDP気候変動スコア**B**

2023/3期 実績

ESG投資指数

- FTSE スコア**1.5**
- CDP気候変動 スコア**D**

2028/3期 目標

ESG投資指数

- FTSEスコア**4.0**以上
- CDP気候変動 スコア**A**取得

目標達成に向けた取り組み

- 1 各種方針の策定
- 2 CO₂削減活動推進
- 3 高付加価値製品
(ロングライフ、
小型化製品等)
の拡販

CDPへの取り組み強化や、ESGデータ（サステナビリティレポートなど）の開示情報の拡充

1. 社是：仕濾過事（ろかじにつかふる）
2. 銘柄：ハイブリッド銘柄
3. 株主還元：高配当銘柄

参考資料

中期経営計画2027 Fly to the next stage!の全体像

過去

2018-2024

グローバルニッチトップで高い収益率を保持していたが2020年以降COVID19の影響により原料高・輸送コストが業績に影響

実施した施策

- 収益基盤の改善に注力
- ガバナンスの再構築を実施
- 新規領域進出の見直し

中期経営計画2027

Fly to the next stage!
2025年3月期-2028年3月期

グローバルトップ企業として
飛躍的成長を目指す

新たな価値創造の取り組み

資本コストを意識した
経営の強化

ESG経営の推進

ありたい姿

2029年3月期以降

次のグローバル
スタンダードを作る
唯一無二の
総合フィルタメーカーへ

目指す方向性と戦略

- フィルタ経済圏の拡充
- 環境課題や社会要請に応える製品開発
- フィルタの事業領域を再定義・拡大する挑戦

「仕濾過事」を具現化し、新たなステージへ

建機用フィルタ

- 多様なアプローチによるシェア拡大
- 高付加価値製品の導入
- アフターマーケット活動の進化

エアフィルタ

- 既存商流の強化
- 直販体制の強化
- ろ材の拡販



企業価値を向上させる

MAVY's経営の実践

財務情報 KPI (2028/3期)

- MAVY's (独自指標) **2%**以上
- ROIC **10%**以上
- WACC **7.3%**

株主還元 KPI (2028/3期)

- DOE **10%**
- 配当性向**80%**

サステナブルな社会の実現

を目指したESG経営

非財務情報 KPI (2028/3期)

- ESG 投資指数
- FTSEスコア**4.0**以上
 - CDP気候変動 スコア**A**取得

MAVY

企業価値向上に向けた定量目標として財務情報、非財務情報、株主還元情報区分しKPIとして設定

財務

非財務

株主還元情報

稼ぐ力

ROIC

資本調達
コスト
WACC

企業価値

MAVY's

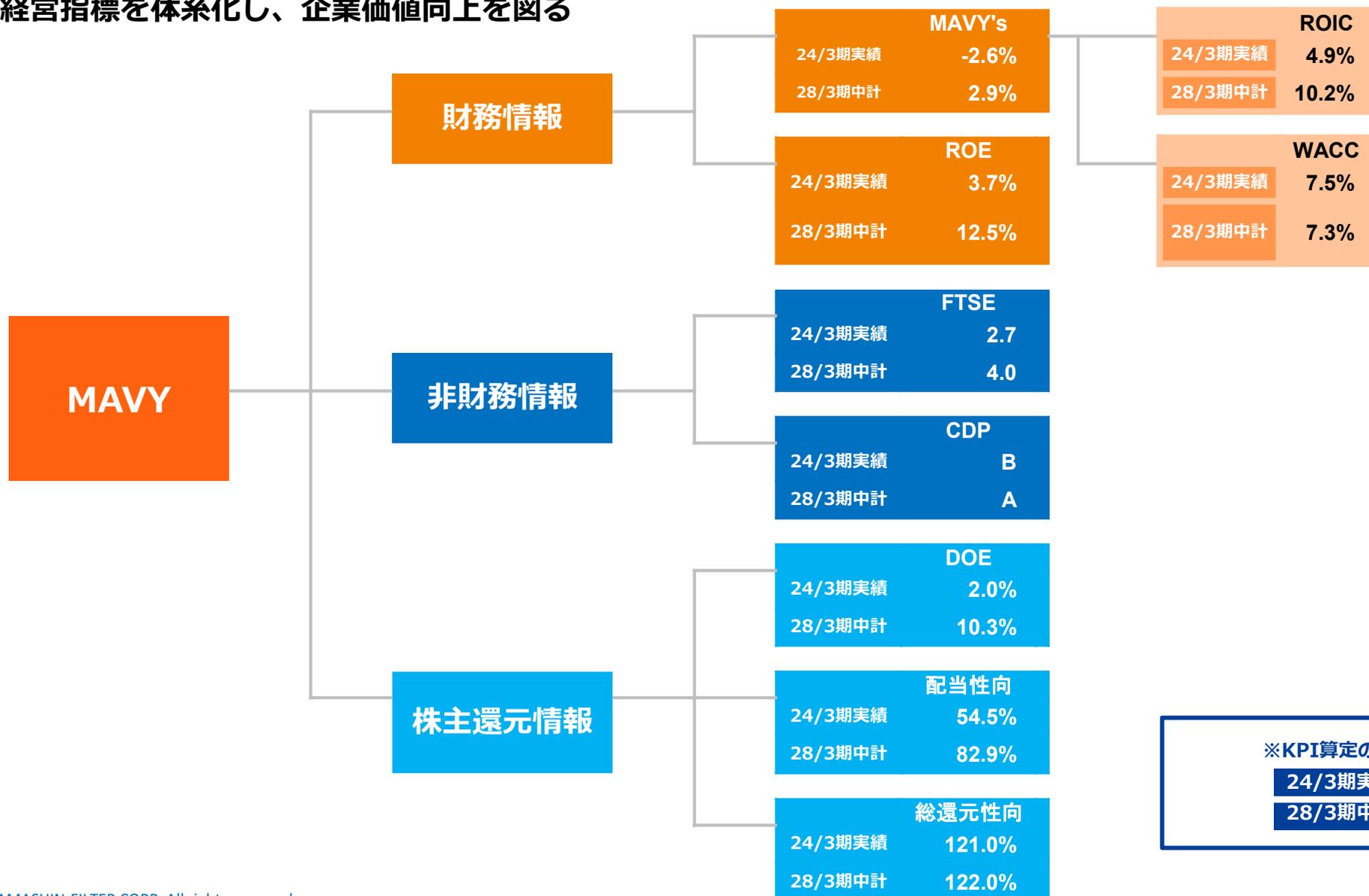
投下した資本に対する
収益率

ROICが高いほど
効率的に資本を活用し収益を生み出している

コストを上回る価値
を生み出しているか

+の値であれば、
資本調達コストを上回る価値を生み出している

ビジネスの更なる進化、資本コストを意識した経営の強化、ESG経営の実践の
KPI経営指標を体系化し、企業価値向上を図る



※KPI算定の前提

24/3期実績

28/3期中計

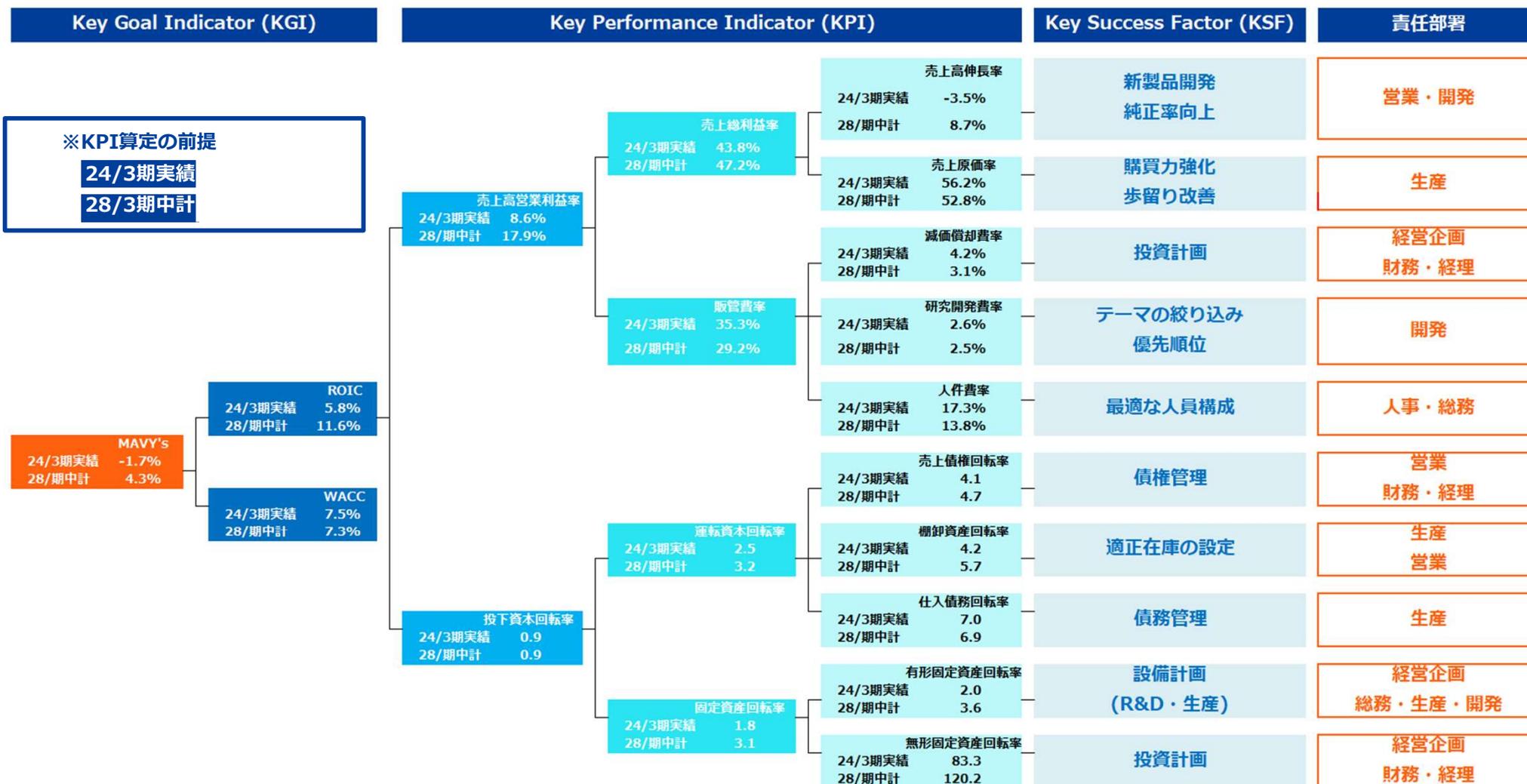
目指すべき定量目標（建機用フィルタ）

以下の施策によりMAVY's向上を図る

1 多様なアプローチによるシェア拡大

2 高付加価値製品の導入

3 アフターマーケット活動の進化



目指すべき定量目標（エアフィルタ）

以下の施策によりMAVY's向上を図る

1 既存商流の強化

Key Goal Indicator (KGI)

※KPI算定の前提

24/3期実績

28/3期中計

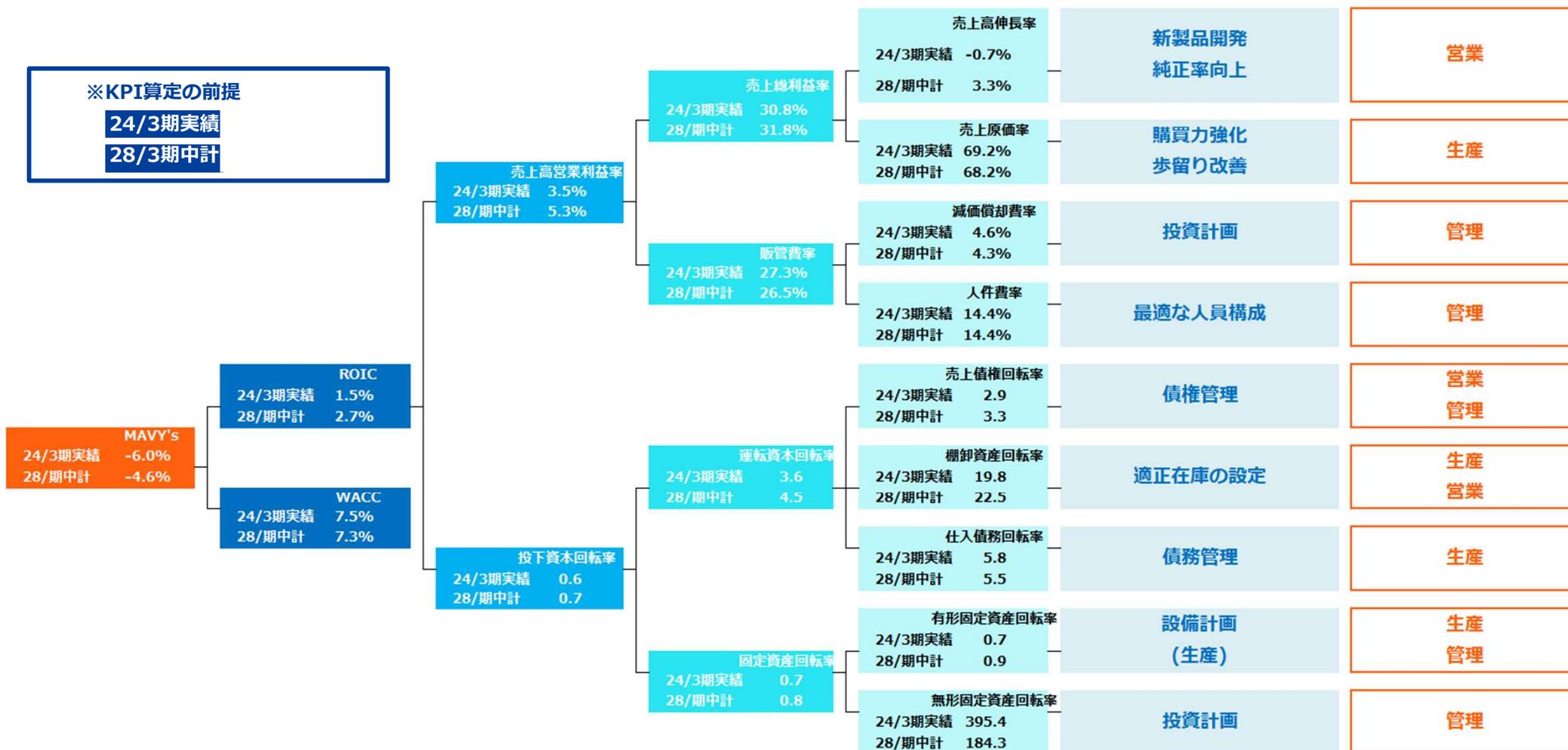
2 直販体制の強化

Key Performance Indicator (KPI)

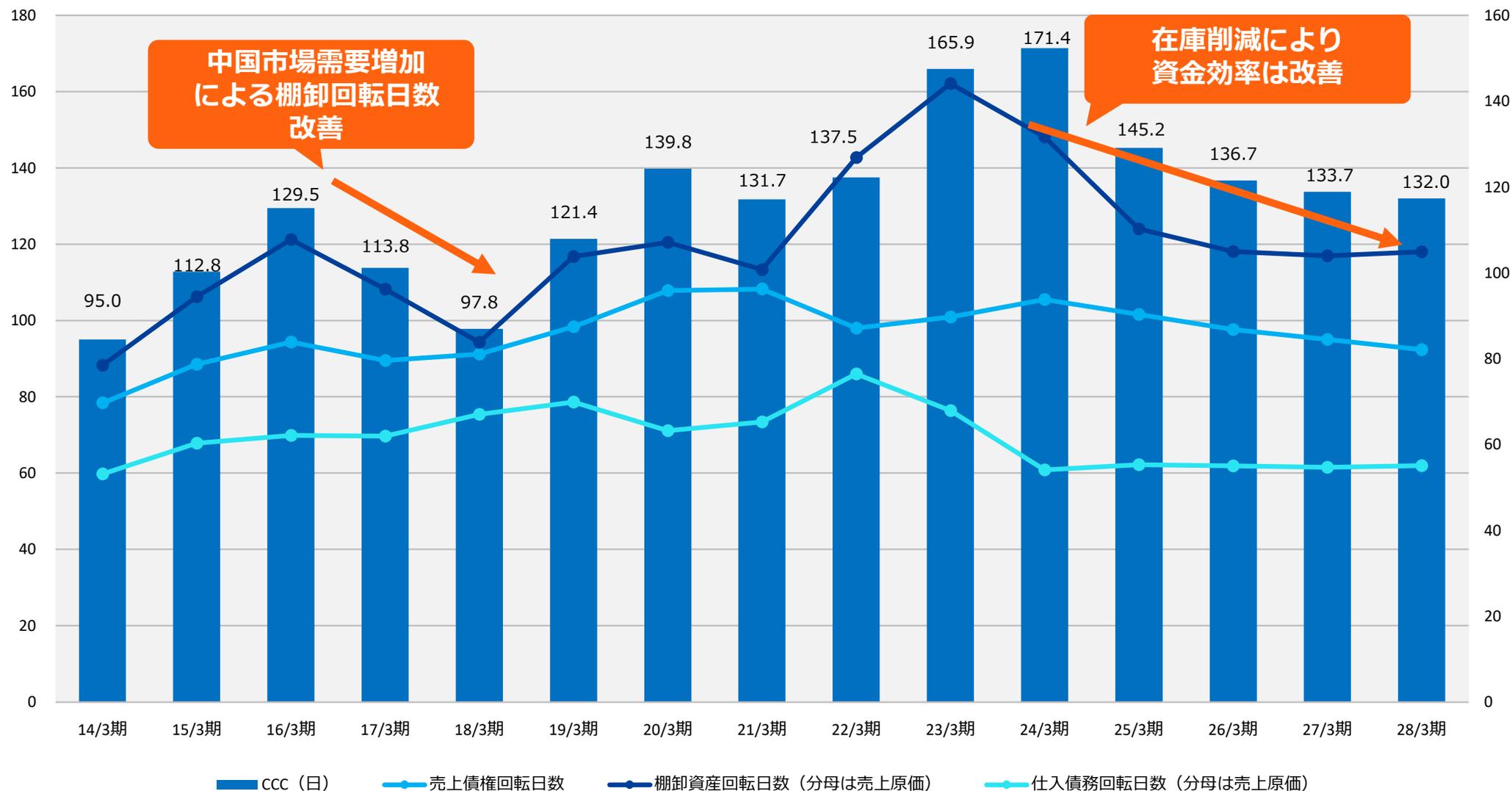
3 素材の拡販

Key Success Factor (KSF)

責任部署



コロナ禍による物流混乱への対応策として、サプライチェーンの最適化、在庫水準の低減により資金効率は改善



CCC:原材料や商品仕入などへ資金を投入してから最終的に資金化されるまでの日数

CCC = 売上債権回転日数 + 棚卸資産回転日数 - 仕入債務回転日数

ESG経営のさらなる推進

目指すべきこと
サステナブルな社会の実現

取り組むべきテーマ



事業を通じた強みの発揮

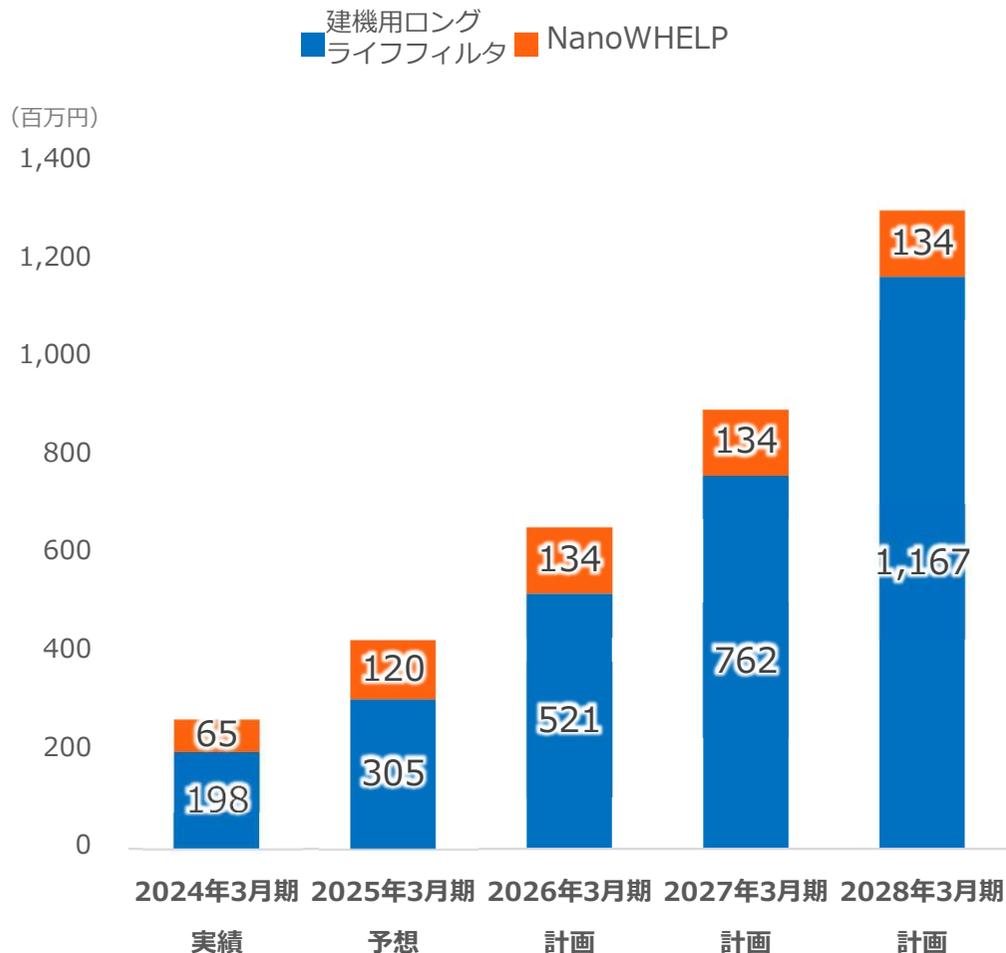
The Specialist in Filtration
YAMASHIN

ESG 経営の実践
モノづくりを極める技術マイスター
イノベーション創出力

建機 エアー

仕濾過事
ろかじにつかふる

建機用ロングライフフィルタやNanoWHELPといった高付加価値製品の販売拡大により、環境負荷への低減を目指す



製品等	概要
大型建設機械向けリターンフィルタ およびラインフィルタ	大幅なロングライフ化の実現により、廃棄物削減を通じたCO ₂ 排出抑制に貢献
エアフィルタ製品 NanoWHELP	当社比で従来製品よりもCO ₂ 排出量を年間23%削減が可能となり、高評価を得ている
マスク製品	繰り返し使用可能な製品の開発により、省資源・廃棄物量低減に貢献
トランスミッション用フィルタ	部品の素材変更により軽量化を実現し、原材料や製品輸送中のCO ₂ 排出量削減に貢献
フィルタろ材	バイオマス素材をフィルタろ材に活用を通じて、ライフサイクル全体における廃棄物排出量削減の実現に向けた研究を推進

従業員の幸福感・心身の健康（ウェルビーイング）を重視した経営を通じ、
多様な価値観を持つ人的資本への投資を促し、企業価値の向上を目指す

多様な価値観を持つ人的資本への投資

Well-being経営の強化

- 従業員エンゲージメントの向上
- 従業員の健康促進
- ワークライフバランスの実現
- 職場環境の改善

離職率の
低下

ノウハウと経験を持った
人材の長期雇用

イノ
ベーション
の創出

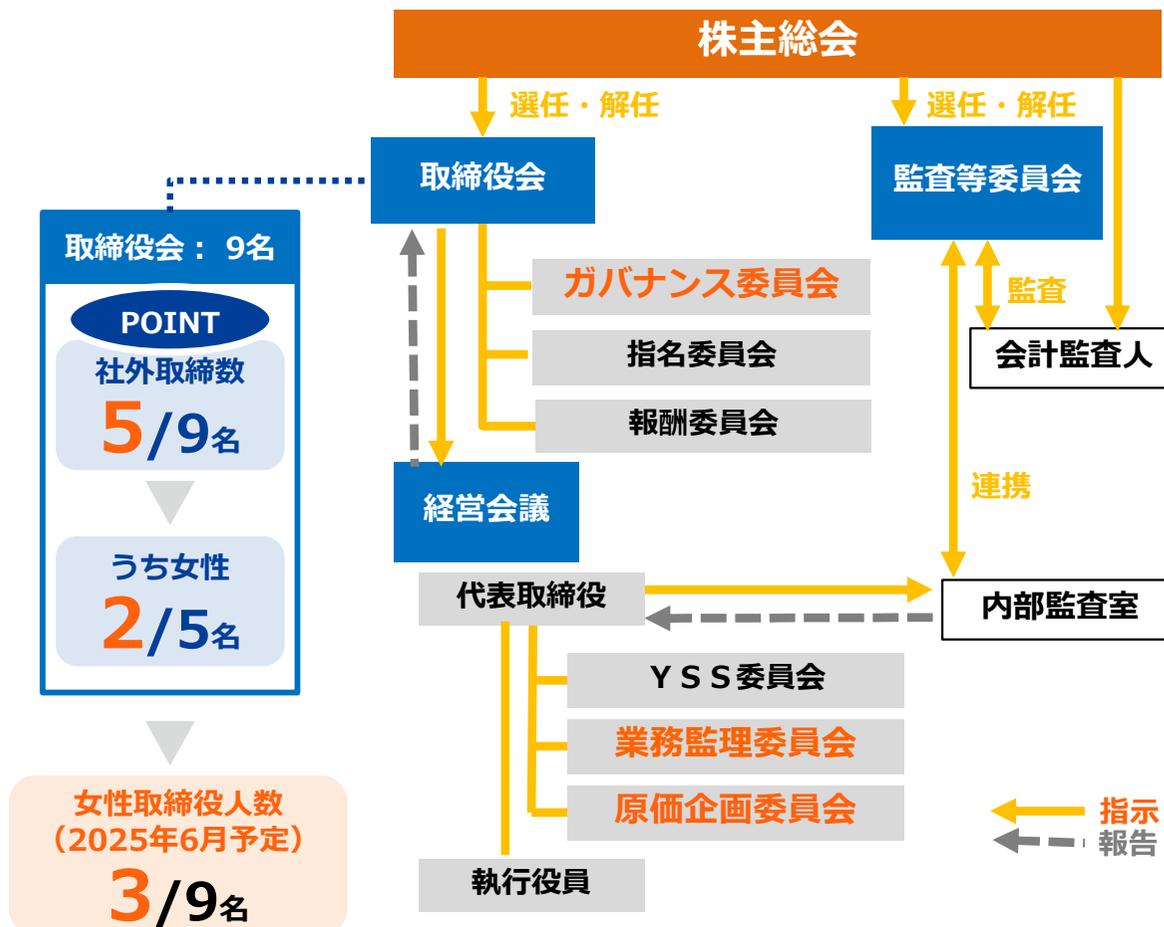
競争力
強化

生産性の
向上

企業価値
の向上

取締役会メンバーのスキルや多様性を確保しつつ、各種委員会によるグループガバナンスの向上により、経営を支える体制を強化

コーポレート・ガバナンス体制



ガバナンス委員会

独立社外取締役で構成
コーポレートガバナンスや取締役会の実効性評価について議論し、取締役会へ助言

業務監理委員会

グループ会社の業務執行に関するリスクの管理・モニタリングを実施し、グループ全体の経営効率化・統制強化

原価企画委員会

新製品開発段階から、顧客が求める品質や機能を最小限のコストで実現する原価企画を推進

YSS委員会

Yamashin Sustainable Solutionsの略である当社のサステナビリティに関する取り組みを推進する委員会



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp